

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

今から十五年以上前、児連、仏青が、私の三條別院デビューでした。子供たちに見せた、手作りの大型紙芝居を、子供たちが真剣な表情をしていたことは、忘れられません。

また、元暴走族総長による、不良少年たちを更生させる講演会も興味深かったです。

別院フォーラムは、特に楽しいイベントでした。

結婚式、バーベキューパーティー、バンドによるライブなど、素晴らしかったです。

また、イラク戦争時には「イラク報告」がジャーナリストによって講演され、テレビや新聞などで報道されていなかった戦争の悲惨さが、伝わりました。

節談説教も、映像でなく、生で見ると、その素晴らしさが、ダイレクトに伝わってきました。

お取り越し報恩講の時期にある、三遊亭金馬師匠による、落語も、立ち見していることを忘れるほど。素晴らしい話芸でした。

報恩講での、雅楽と声明の組み合わせ、劇団による芝居も、感激しました。

大谷大学学長による、日本史から親鸞聖人へアプローチした講演会、仏教学者の古田先生、真宗学者の一楽先生の講演会も、とても勉強に

なりました。

本堂の内陣の造りが、そのまま仏の教えであることや、福島原発事故の講演会も、勉強になりました。

フェイスブック講習会など、ネット関係の勉強会も、今の時代を反映させていたので、よかったと思います。

いま、私は、別院の書道、声明教室に可能な限り参加するようにしています。

三條別院は、仏教の信心の場というだけでなく、生涯学習の場として、あるいは、新しい情報を発信する場として、さらに、参加するという、主体性が必要な場として、私は認識しています。

書物や映像でなく、血の通った生身の人を通して、仏教を学ぶということが、とても大切だということだが、経験によって理解できました。

別院の、本寺小路は、居酒屋さんや料理屋さんもある飲み屋街です。

寺という聖なる場と、飲み屋街という俗なる場が、近いところにあることは、親鸞聖人が書かれた「正信偈」の中の「不断煩惱得涅槃」、つまり、煩惱を断ぜずに涅槃に入ることができるといふことばが、そのままあてはまると思えます。

汚い泥の中に咲く蓮の華は、仏教のシンボル

です。

わたしたち凡夫ひとりひとりが、汚い泥であり、同時に清い蓮の華であることを三條別院の街並みが示している気がしてなりません。

「本願力に遇いぬれば、むなしくすぎるひとぞなき」という、親鸞聖人が何百年も前に述べられたことばが、いきいきと伝わってくる「場」が、三條別院だと思います。

中原一成氏（第十六組福成寺住職）

○次回の「三條別院に想う」は、

お取り越し報恩講立花スタツフより

「花材としての松葉集」のお願いです。

2017年別院子ども奉仕団報告

毎年恒例の子ども奉仕団が四月三日〜四日まで開催され、八十二名(内保養事業として十六名)子どもたちが参加してくれました。正信偈の練習や清掃奉仕や本堂でのお参り、工作や夜の本堂探検や謎解きウォークラリーなど、お寺でしかできない体験をしました。定員をはるかに超す子どもたちの若い精力にスタツフ達は時に圧倒されますが、児連の活動をはじめとした教区の事業で鍛えられているため、大過なく楽しい時間を過ごすことができました！



【子どもの鋭い質問にひるむ列座】

三条別院公開講座のご案内

既にご案内の通り、本年も公開講座を開催します。

◆日時 五月十四日(日) 午後一時

◆会場 三条別院 本堂

◆聴講無料

◆講師 ケネス・タナカ氏

(武蔵野大学教授・日本仏教心理学会会長)

◆講題 「伸びるアメリカ仏教と心理学との協力
—日本にも到来?—」



▲公開講座ホスターの「仏教先進国」アメリカ」という言葉について、「伝統的な日本の仏教徒として、誇りを失った恥すべき表現ではないか」という意見をいただきました。アメリカでは一九七〇年代のベトナム戦争等をきっかけにしてそれまでの価値観を見直す運動が興り、仏教がその思想的支柱の一つとなりました。江戸時代の寺檀制度のもとで安定を迎えた日本仏教とは異なり、アメリカ社会で仏教は実績(三悟り?)を残さなければ生き残っていけない状況の中、実践する宗教として展開してきた歴史があります。今回は特に、「仏教心理学」というように、医療の分野でも既に応用されてきています(ジョン・カバット・ジン『マインドフルネスストレス低減法』を嚆矢とする)。日本の仏教とアメリカ仏教の優劣を比べているのではなく、日本の仏教には日本の仏教の良さがあり、同様に、アメリカ仏教にはアメリカ仏教の良さ(日本よりも進んでいるところ。それを鍵括弧つきで「仏教先進国」と表しました)があります。そこに真摯に学んでいきたいというのが今回の公開講座のねらいです。

(斎木)

宗祖御命日の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会を開いております。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

◆日時 五月二十八日(日) 午前十時より
◆会場 三条別院 本堂

◆お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下
念仏讚 洵五
和讃 回口 次第六首
回向 願以此功德



◎今月の法話講師

中原 龍氏 (第十六組福成寺) 【第十六章】

◆今後の講師一覧

テーマ 『歎異抄』に聞く

六月 安原陽二氏(第十二組安浄寺) 【第十七章】

▲昨年一月より、「歎異抄」に聞く」をテーマに、各講師一章ずつ担当してお話しいただいています。四月は濱松智弘氏で、第十五章の「煩悩眞定の身をもってすでにさとりをひらく」という異義についてでした。仏教にであつ体験の大事さにも言及しながら、それに縛られないことを、「お坊さんは死ぬのが怖くないですか?」と問われた話などを用いて話されました。

定例法話会

毎月十三日の前門首のご命日(両度の命日)に行っている定例法話会を左記の通り開催いたします。

◆日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

◆場所 三条別院 旧御堂

◆講師

五月〜七月 永實晴香氏(第十組浄敬寺)

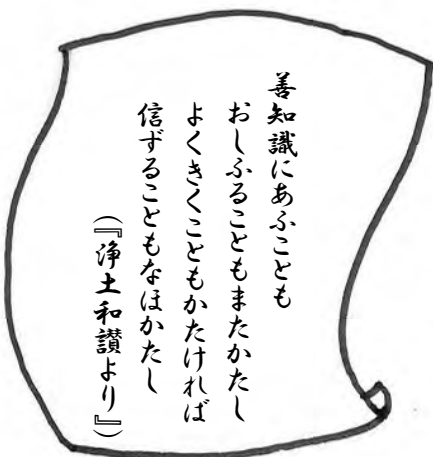
五月「遇うべきひと」

六月「遇うべきこと」

七月「聞くこと、歩むこと」



▲五月から七月は、報恩講実行委員会法要部会委員で、報恩講お持ち受け音楽法要における女性僧侶による助音の指導も行っている永實氏にお話しいただきます(写真は別院声明教室で指導する様子)。



善知識にあふことも
おしふることもまたかたし
よくきくこともかたければ
信ずることもなほかたし
『浄土和讃より』

その他の講座案内

○別院声明教室(全五回・途中参加可能)

〔月一回、午後六時〜八時〕

二月二十一日(火)〔済〕、三月二十一日(火)〔済〕

四月十八日(火)〔済〕、五月十六(火) 六月二十日(火)

講習内容 真宗大谷派勸行集(赤本)

講師 長田 暢氏(第十六組 善興寺)

参加費 五〇〇円/回

○別院書道教室

〔月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分〜八時〕

講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 二七〇〇円(テキスト代含む)



随時募集中

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日一五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注)

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○庭講(清掃)

三条別院庭講は本年も様々な行事を予定しております。

一緒に別院のお庭を整備していきませんか?

ぜひ、お気軽にご参加ください。

○三条別院有志の会

もともと三条別院のお朝事にお参りしている、門徒からはじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節

ごとの懇親会を行っております。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊(絵像)をお迎えして、開法会を開催しませんか? 輪番と随同行一名でお勤めと法話を行います。集会所や門徒宅等で開催できますので、会場や時間などはご相談ください。

花材としての松募集

毎年、お取り越し報恩講に荘嚴する仏花の松(特に五葉松)が不足して困っております。三条別院の場合には中尊前と祖師前を五具足で荘嚴します。赤松の木(ぼく)に松の枝を結びつけていくのですが、十八間四面の本堂に見合う仏花なので、大量の花材を必要とします。伐採する予定の松等がありましたら、ぜひ使用させていただきたいので、別院までお知らせください。次号でまた、詳しく記させていただきます。



【宗祖750回御遠忌法要に
おける中尊前本勝手の仏花】

同朋会館へ宿泊される方へのお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所に「いただきます宿泊者帳」に記帳してください。その後、シートクリーニング代五〇〇円とシートを交換させていただきます。なお、宿泊される方は、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

◆◆編集後記◆◆

ゴールデンウィークが近づき春の陽気を日々感じる。同朋会館の玄関で育てている植物も、冬の間は元気がなかったが、最近日は日に日に芽が伸びるので成長が楽しみだ。四季と命は非常に面白い。秋から冬にかけての「死」と春から夏にかけての「生」が一年ごとに繰り返され、命が妙にうまく具合に相続されていく。

人間は恒温動物かつ冬眠はしないので植物や冬に動かない動物と違い、基本的にはずっと元気に生き物だが、中には冬になると元気がなくなる人がいる。寒さだけでなく、様々な要因によって人間は元気でなくなる。その場合、状態や変化に名前をつけ、化学物質などで元気がった状態に戻そうとする。

人間の状態の変化は可逆性のものであるが、不可逆性のものである。一度変化したら二度と戻らない変化は、もつどのようにしても元には戻らない。変化したまま生きていくしかないのだ。もう元には戻らない変化を受け入れられる場合もある。受け入れがたい場合、どうするべきだろうか。私が受け入れる受け入れられないに関わらず変化は絶えず起こる。私たちが暮らしている自然も四季を繰り返して、生と死を繰り返す。受け入れがたい変化を受け入れられるのが宗教だろうか。受け入れられなくても生きていけるのが宗教だろうか。

考えていると春の陽気で眠くなる。春眠暁を覚えずと言うが、三条別院のお朝事は毎日七時と決まっている。(森尻)